

第2回地球温暖化対策プラン検討会議／開催結果報告

- 1 日時 : 平成22年9月13日(火) 午後3時～5時
- 2 場所 : 京都府公館 第5会議室
- 3 出席者 : (別添の検討メンバー)
地球温暖化対策課: 森田課長、松田副課長、杉原副課長、山本主査
- 4 内容 : 平成22年度改定地球温暖化対策プラン(中間案)について

<主な意見>

- 「持続可能社会に向けた基盤づくり」とあるが、具体的なCO2削減のベースとなる部分は、省エネルギー、エネルギー効率改善、エネルギー転換(再生可能エネルギーの普及)である。
- 取り組むべき施策・事業を重点化するのはよい。対策がイメージしやすい。
- 再生可能エネルギーを増やしていくためには、スマートグリッドが重要な技術的基盤であり、蓄電の面からは電気自動車の普及に力を入れることも重要である。
- 省エネルギーフォームと府内産木材の利用促進の対策をばらばらに進めるのではなく、窓口のワンストップ化などを進めていくべき。
- 京都産業エコ推進機構では、要素技術だけの対応では難しい。システムとして輸出していかうとする必要がある。
- バイオマスについては、固体ではなく世界的には液体、気体といったバイオマスの高度利用が伸びている。木質のガス化、液体バイオ燃料などこのような点にも踏み込んで、バイオ全体として発展させていく必要がある。
農村が食糧供給だけではなくエネルギー供給源となるという方向性を打ち出す必要があるのではないか(風力だけではなく休耕田でのエネルギー作物の栽培(柳、ひまわり、トウモロコシなど 農家としてきちんとした収入が得られること)
- デンマークは、再生可能エネルギーが一番伸びているが、再生可能エネルギー資源としては一番乏しい国である。それに比べると日本は森林など再生可能エネルギー資源が使いきれていない。企業にとってもビジネスチャンスは多くある。京都産業エコ推進機構の役割が重要になってくる。
- エコカーも大事だが、どのような運転をするかが燃費の向上においては重要。EV ラリーが一般ユーザーへのエコドライブの啓発にもつながる機会になるのではないかな。
- 向日市内の学校で屋上に廃材の竹を並べたところ断熱の効果が出た。環境教育でも活用できるのではないかな。
- 桂高校では、手入れが簡単な屋上用の芝生を作っている、来年度から他校へも導入の動きがある。